

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	スパーク衣笠		
○保護者評価実施期間	2026年2月18日		2026年2月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2026年2月18日		2026年2月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様一人ひとりの発達段階と、ご家庭の状況に深く寄り添う個別支援体制	画一的な対応ではなく、個々の生活リズムや保護者様のニーズに即した柔軟なサポートを徹底している。急な送迎時間の調整や療育内容への細かなご要望にも、職員間で即座に連携を取り、安心して通える環境を構築している。	送迎時や連絡帳を通じたコミュニケーションに加え、日々の何気ない対話(雑談)を大切にすることで、ご家庭での小さな困りごとや潜在的なニーズを早期に汲み取れるよう努めていきたい。
2	スパーク運動療育という明確な柱を軸に据えることで、運動、ストレス発散、心の成長といった具体的な効果を求める利用者の意向に沿い、一貫性のある質の高いアプローチを実現している。	外部講師によるOJT研修に参加することで、スパーク運動療育のマイスターからフィードバックを受けている。指導で得た専門的な視点やフィードバックをスタッフ間で共有・蓄積している。	療育士がオンライン研修に参加する頻度を増やす。
3	小規模組織を活かした迅速な意思決定と、現場改善における高い機動力	組織がコンパクトであることを強みとし、療育現場で気づいた課題や送迎体制の改善点、保護者様からのご提案などを、即座に会議で共有し、実行に移す「スピード感」を大切にしている。大規模な事業所とは異なり、承認プロセスに時間をかけず、全職員の合意形成を迅速に行うことで、その日のうちにでも改善できる体制を維持している。	朝礼や終礼など短時間のミーティングも有効活用する。また、定期的なミーティングを行う。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	社内の教育体制が不十分な点がある。	外部の運動療育士認定講座やOJT研修に依存しており、社内で療育を深めるための仕組みがない。	社内でも療育を深めるための事例検討会などを開催していく。 終礼時に職員間のフィードバックの時間を持つ。
2	保護者への療育後のフィードバックが不十分な場合がある。	・フィードバック内容について社内での話し合いが不十分だった。 ・パート職員へフィードバックの教育をしていなかった。	パート職員へフィードバックのやり方を伝え、指導していく。
3	採用・広報力の不足による人材確保の遅れ	少人数で運営する中で、採用と広報が後手に回ってしまっていた。	採用と広報の優先順位を上げていく。業務の棚卸し、職員間での業務分担の再編を行う。